

# 尊光寺報

第131号  
令和2年12月

徳島県阿波市市場  
町大野島字天神41  
尊光寺

## 報恩講法要は短くしてお勤め

新型コロナウイルスの影響を受け、十二月十九日・二十日に予定してありました尊光寺の報恩講は予定を変更してお勤め致します。例年は、一日目は昼のお勤めと夜のお勤め、二日目は朝のお勤めと午後のお勤め、計四座のお勤めをいたしておりますが、新しい日程は、左の通りです。

### 十二月十九日(土曜日)

午後一時より午後三時半頃まで、  
お勤め・御伝鈔拝読・法話。

### 十二月二十日(日曜日)

午前十時より午後一時前まで、  
お勤め・御伝鈔拝読・法話。

門徒総永代経法要を兼ねてお勤めいたします。昨年未よりこの一年で往生された方のお名前を読み上げてお勤めいたします。焼香ください。お齋としてお弁当をお渡しします。

本堂は程よく換気されておりますので密閉空間になりにくいですが、参拝の際にはマスクを着用されるなど咳エチケットにご協力ください。また手指の消毒液を置いてありますのでご利用ください。皆さまのお参りをお待ちしています。

### 講師

今年の報恩講話のご講師は、本願寺派布教使の長谷川憲章師(広島県三次市善徳寺)です。長谷川先生は平成27年春以来、久々のご登場です。時にはギターを弾いて懐かしい歌にのせ、阿弥陀さまのお慈悲をお話ししてくださる気さくな先生です。どうぞ心お楽にしてお参りください。



### 困難な中でも脈々と

親鸞聖人は私たちに「南無阿弥陀仏」のお救いを示され、弘長二年十一月二十八日(新暦では1263.1.16)に九十歳の生涯を閉じられ、お浄土へと往生されました。親鸞聖人の三

十三回忌に際して「報恩講」と名付けられて以来、親鸞聖人の命日を縁として毎年脈々と報恩講が勤められてきました。その長い歴史の中には、法要を勤めるのが困難な時期もありました。本願寺八代の蓮如上人の頃、本願寺は比叡山の衆徒に攻められてお堂が破却されるという出来事がありました。このとき蓮如上人は親鸞聖人のお木像を安全な地に移動しながら報恩講を勤めたことが知られています。

また、現在の大坂城の地に本願寺があつた戦国時代、織田信長は十一年にわたつて本願寺を攻めていました。その戦禍の中ではゆつくりとした時間が取れず、わずかな時間を惜しんで読経がされてきました。そのわずかな時間での読経は、聞いてびつくりするほど早いスピードの正信偈として、現在でも本願寺の夕方のお勤めとして受け継がれています。

このように困難な中にあつても脈々と途切れることなく勤められてきたのが報恩講です。親鸞聖人を偲び、阿弥陀如来のお慈悲に出会い、先立つた方とふたたび出会える浄土に生まれ仏となる浄土真宗の教えを大切にされてきた先人達と思いを同じにし、本年も皆さまとともに報恩講をお勤めいたします。どうぞお参り下さい。

### 前門徒総代長、樫原哲男氏ご往生

―七条袈裟に芳名を記載―

七月十九日、前門徒総代長であつた樫原哲男氏(市場町日開谷)が往生されました。数え九十八歳。樫原氏は昭和五十二年に総代に就任、昭和六十年より平成二十八年に中村憲明氏に引き継がれるまで総代長を務め、先代の信乗住職と手を取り合い尊光寺を盛り立てて下さいました。特に本堂の大修復・書院の改築など大きな事業を乗り越えられたのも、そのお人柄があつてこそでありました。いつもニコニコとお寺にお参りをされ、「あんたもようお参りになつたねえ」と皆さんに声をかけているお姿が印象的でありました。

樫原氏のこれまでの多大な貢献に対し、ご本山より弔慰状と院号「哲照院」が贈られました。また尊光寺では、新調された七条袈裟の裏地に芳名を刺繍記載し、その功績をたたえ甚深の



新調の七条袈裟

## 法要・行事のご案内

コロナ対策のため、法要・行事の際はマスクするなど咳エチケットにご協力ください。また消毒液を置いてありますのでご利用いただき、手洗いをこまめに行いましょう。

### 御正忌報恩講法要

【12月19日】午後1時 法要・御伝鈔拝読法話  
【12月20日】午前10時 法要・御伝鈔拝読法話  
お昼 お齋(お弁当を配付)

【法話講師】 長谷川憲章師(広島県)

ギターを片手にお話下さい。

【執行当番】 麻植組(牛島・麻植塚・鴨島・西麻植・神後・山田・川島・桑村・学・山川)です。よろしくお願ひします。

### 除夜の鐘

【12月31日】午後11時40分頃より

行く年来る年をお念仏とともに。どなたも一緒に鐘をつきましょう。

【1月1日】午前0時 修正会

本堂で新年のお勤めをいたします。

### 春の彼岸会永代経法要

【3月20日】午後1時 法要・法話

【3月21日】午後1時 法要・法話

※21日は仏教婦人会総会を兼ねます。

【法話講師】 田村正教師(香川県)

### 令和3年 年忌表

令和3年の法事と亡くなった年

- 1周忌 令和 2(2020)年
  - 3回忌 平成31・令和元(2019)年
  - 7回忌 平成27(2015)年
  - 13回忌 平成21(2009)年
  - 17回忌 平成17(2005)年
  - 25回忌 平成 9(1997)年
  - 33回忌 平成元・昭和64(1989)年
  - 50回忌 昭和47(1972)年
  - 61回忌 昭和36(1961)年
  - 100回忌 大正11(1922)年
  - 150回忌 明治 5(1872)年
  - 200回忌 文政 5(1822)年
  - 250回忌 明和 9・安永元(1772)年
  - 300回忌 享保 7(1722)年
- 過去帳やお位牌をご覧ください。

謝意を表しました。  
謹んで哀悼の意を表し、浄土よりお導き下さいますよう  
念じ申し上げます。

## 正信偈講座 26

(赤い経本 一・二巻)

### 獲信見敬大慶喜 即横超截五悪趣

【訓読】 信を獲て見て敬ひ大きに慶喜すれば、すなはち横に五悪趣を超截す。

【現代語訳】 信心をいだいて大いによろこび敬う人は、ただちに、阿弥陀如来の必ず救うと誓われたその願いの力によつて、六道輪廻への迷いの因が断ち切られる。

前回は、「獲信見敬大慶喜」を読み、「慶喜」とは、阿弥陀さまの必ず救うとの誓いを聞かせていただいた安堵感であるとあじわいを書きました。

今回は、「即横超截五悪趣」についてです。訓読では「横に五悪趣を超截す」と読みます。まずその「五悪趣」とは、五つの悪い世界という意味です。みずからの行い(業)の報いはみずからが受けていかなければなりません。これを自業自得と言いますが、これは私たちの一瞬の行動とその次の一瞬に現れる結果にも当てはまりますし、今の行為がずいぶんと後になつてその結果を引き起こすこともあります。

「なんであんなことを、あの時にしてしまつたんだろう」と、後悔先に立たずとはよく言うものですが、自分でどうにかするものではないのがこの娑婆世界の現実であります。

この自業自得の連鎖は、命が終わつてそれで終わりという訳ではなく、命あるうちに行つた行為の報いは自分自身が引き続いて受けていかなければならないということでもあります。私たちの命は今生で様々な事をしでかし、その報いを来生の命として受けていく。その考え方が六道輪廻です。

六道とは、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天の六つの世界であり、修羅の世界を他の世界に含んで数える場合は五趣と言います。これらの世界をこの命は生まれ変わり死に変わり廻つていくと考えるのです。この人間の世界にも六道の世界があります。自分が生まれ変わっていく世界としても六道の世界があるのです。地獄は苦しみの尽きない世界として説かれ、天は楽しみを尽きない世界として説かれますが、どの世界でもこの六道の中は生・老・病・死の苦しみのある世界、思い通りにはならない世界です。どれほどこの人間の一生で素晴らしい経験をしたとしても、「もう一度やり直しますか?」と聞かれると「もう結構です」と言いたくなるのは、この生・老・病・死

の苦しみを我々は経験として知っているからでしょう。

この輪廻していかねばならない世界を「五悪趣」と表現しているのですが、それを「横に超截す」とはどういう意味でしょうか。「截」とは「ずばりと断ち切る」という意味の漢字です。から、五悪趣の迷いをずばりと断ち切るということになります。「横」とは、「横に」に對する言葉で、通常の順序を経ることなく、横(よこざま)に飛び越えていくイメージです。自分の力で修行を重ねていく仏道を「横」と表現しているのです。お念仏に出会いさとりに至る仏道を「横」と表現しているのです。お念仏に出会うとは、「南無阿弥陀仏」とは「必ず救う、我にまかせよ」という阿弥陀さまの願いであります。「南無阿弥陀仏」はわずか六文字ですが、そこには迷いの世界でもがく我々を浄土に生まれさせ、さとりをひらかせる功德を全て込めて私たちに届けて下さつたものです。

小さな赤ちゃんは「オギャーオギャー」とよく泣きます。おしめが湿つたから、眠いから、お腹が空いたから。母はその泣き声をすぐさま判断し、「お腹が空いたねえ」と語りながらミルクの準備を始めます。赤ちゃんの側から、「今日はお肉が食べたいです、お母様」とは申しませんし、母からも、「今日はステーキだよ」とはなりません。赤ちゃんもミルクが自分にとって一番のごちそうであることを知っているのでしようし、母も赤ちゃんにとつて一番良いものはミルクであることを知っています。母は赤ちゃんが飲みやすい温度に仕上げ、赤ちゃんが飲みやすいように哺乳瓶を口へとあてがいます。母の呼びかけに安心し赤ちゃんはゴクゴクとミルクを飲みます。そのミルクには赤ちゃんが大きくなる栄養・免疫、全てが不足なく具わつています。

お念仏もわずか六文字ではありますが、右も左も分らない私たちに對し「必ず救う我にまかせよ」と阿弥陀さまが呼び続けて下さり、その功德を全て込めて私たちの所へと届けて下さつています。それゆえに、よこざまに迷いの因が断ち切れ、この命終わるときには必ず浄土に生まれ行く人生をただいま生かさせていただいているのです。

### 結婚記念にミモザの苗木

副住職夫妻の結婚記念にと、ご門徒の長尾和枝さんよりミモザの苗木を頂きました。ありがとうございます。ミモザは春に房状の黄



色い花を咲かせるアカシアで、明るく可愛い花がとても人気のある庭木です。さつそく二人で鉢に植え付けました。ミモザの木とともに夫婦も育つていきたいと願いを込めて。どうか枯れませぬように。大切にしていきたいです。

### 徳島新聞カルチャーセンター新春特別講座

※特別講座は一回のみの講座で入会金不要です。

#### 「心豊かに生きるフツダの教え」

心豊かに生きるヒントをお釈迦様や親鸞聖人など高僧の言葉から学んでまいりましょう。日常の仏事の心得などもお伝えします。

講師 尊光寺副住職 赤松信映

講座日 1月23日(土) 10時~11時半

受講料 2000円(税別)

持参品 筆記用具

会場と申込先 徳島新聞カルチャーセンター 徳島本校

0881-665-8500 徳島市川内町平石若宮92-4

お電話でお申し込み下さい。

受付時間 10時~17時(12/28~1/3、祝日休み)



### 副住職担当、徳島新聞カルチャー教室の「案内」

各講座、受講生募集中です。

#### 仏教講座「御文章(ごぶんしよう)」

「聖人一流の」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が「御文章」です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた「御文章」を、原文に沿って読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましょう。

●毎月第3金曜日 10時~11時半 月額 2500円(税別)

【教室申込先】徳島新聞カルチャーセンター 徳島本校

徳島市川内町平石若宮92-4

TEL 088-665-8500

#### 親鸞聖人と「歎異抄(たんにしよう)」

「悪人こそが救われる!」「歎異抄」には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がまつています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧に読み解きあじわつてまいりましょう。

●毎月第2月曜日 13時半~15時 月額 2500円(税別)

【教室申込先】教室は、阿波おどり会館内

申込は、徳島新聞カルチャーセンター 徳島本校

徳島市寺島本町西1-5 徳島店9階

TEL 088-611-3355